

## あ と が き

関西大学学生センターが実施している「学生生活実態調査」は、1955年に第1回の調査を行って以来、半世紀を超える歴史があります。この間、蓄積してきた調査結果のデータは膨大な量であり、学生生活の実態が多種多様に変化していることから、学生の実態をよりの確に把握するため、本学としても貴重な財産として保存しています。

今回の調査でまず注視したい事項は、学生生活の充実度（問9）についてです。“充実している群”に属している学生が52.9%であり、前回調査（2018年）と比較して13.3ポイント下降となりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、充実した学生生活を過ごすことができないことが理由として考えられます。本学では、今後も大学に対する満足度や学生生活の充実度を向上させるべく、学生の期待に応えうる取組みを行っていきたいと考えております。

次に、駐輪に関する項目（問28・29・30）では、約4割の学生が、学内の指定駐輪場所について「知らない」と回答しており、また、「指定の駐輪場所以外の場所に駐輪したことはありますか。」との問いに対して、一定数の学生が「ある」と回答しています。指定場所以外の駐輪は、学内の景観を乱すだけでなく、災害時の避難経路を塞いでしまう等の危険性もあるため、今回の調査結果から、指定駐輪場所の一層の周知や拡充について、検討する必要があることがわかりました。

続いて、喫煙に関する項目（問32・33・34）では、9割以上の学生が非喫煙者であると回答しており、また、喫煙率が減少傾向であることも確認できました。一方で、自由記述では、喫煙場所以外での喫煙や副流煙の被害等の報告が多数ありました。この結果を踏まえ、引き続き、より一層の効果的な啓発方法を検討し、実施する必要があることがわかりました。

最後に、自由記述欄ではさまざまな学生の要望や感想が「生の声」の形で記されています。本学としましては、この調査結果を貴重な資料としたうえで、学生生活や教学における問題点等を改善するために有効に活用していきたいと考えております。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたりご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、アンケートに回答いただいた学生諸君に厚く御礼申し上げます。